

1ねん学年だよ!!

平成31年1月25日(金) 第41号



人生の[通]になるために その1《朝の読書》

堀江中学校では、全校集会・学年集会以外の日は毎朝《朝の読書》に取り組んでいます。およそ30年前から全国で取組まれるようになった《朝の読書》ですが、その方法はいたって簡単。とにかく「自分で選んだ本を読む」というだけです。「読書」なのでマンガや雑誌の類はダメなのですが、それ以外なら基本的にはどんな本でもOKです。その本を読んだ後でそれについて感想文を書くとか、先生に何かを報告するなどといった必要もありません。とにかく、1日の授業が始まる直前の10～15分程度、みんなで静かに読書をするだけです。本当にそれだけ。それにしても、こんなシンプルな取り組みが、なぜ全国の学校で流行しているのでしょうか？



人間の成長において読書がとても重要であることは、今さら述べる必要はないでしょう。さすがに、「読書をすれば国語のチカラが伸びる」などと単純なことはいえませんが、それでも少し考えるだけで知っていることばの数が増える、文章を読み通す力がつくなど、読書のメリットはすぐに思いつきます。そもそも、読書をすることは“娯楽”のひとつです。読書は、キミたちも大好きな、たとえば「ゲーム」や「テレビ」と並んでもいいぐらいの“娯楽”なのです。読書が好きな人は、翌週の連続ドラマを楽しみにするように、次の読書の機会を楽しみにしています。また、おもしろい本に出会うと、連続ドラマが放映されている3か月間ずっと楽しみが続くように、1冊の本を読み終えるまでの、たとえば10日間ずっと楽しみが続きます。《朝の読書》が流行した背景に、このような「読書そのものの楽しさ」があることはいうまでもありません。



しかし、《朝の読書》が流行した一番の理由は、「それが《朝》だったから」です。朝のあわただしいひと時、心を落ち着けて静かに読書をすると生活のリズムが整えられるということがわかりました。読書が脳を優しく刺激することで脳が活性化し、その結果授業に集中できるということもわかってきました。そのことを実感できた人は「読書そのものの楽しさ」もわかるようになります。「荒れた学校が落ち着きを取り戻した」という例まで出てきました。さて、このように、良いことばかりの《朝の読書》ですが、あとはそれに取り組む人の“心がけ”次第です。このチャンスをゲットするか、黙ってそのまま見過ごすのか…。それはあなた次第です。



人生の[通]になるために その2《百人一首》

2回にわけて実施された百人一首確認テストが61期生を大きく揺さぶったようです。1回目は1番～40番まで。テストの形式は予告してあったものの、あまり勉強せずにテストに臨んだ人も多かったようで、15点未満で再テストになった人がたくさんいました。再テストは20点以上で合格ですが、再テストを2回以上繰り返し受験してようやく合格した人もいます。それでも最後の最後には、語呂合わせの覚え方をいくつか紹介し、なんとか全員が合格することができました。それで“火がついた”のか、2回目のテスト(41番～100番)では、実にたくさんの方が25点以上で一発合格をすることができました。もちろん今回も不合格の人には補習や再テストをしますが、キミたちなら最後にはきっと全員が合格することでしょう。



それにしても感心したのは、百人一首を覚えようと勉強している人がたくさんいたことです。休み時間には友だち同士で語呂合わせを教え合い、問題を出し合っている姿をたくさん見かけました。家でプリントアウトしてきた覚え方をじっと読み込んでいたり、自分なりに紙に書き出してまとめていたり、かわいいイラストを描いて覚えやすいようにイメージを膨らませていたり、覚える方法は十人十色ですが、とにかくみんながみんな、自分なりの方法で努力をしているのです。「テスト勉強をする」とは、まさにそういうことです!! 目標は人それぞれ違って構いません。百人一首テストでも、満点を目指す人もいれば、30点を目指す人もいます。でも、する前から「あきらめる」(×)、「無理だと決めつける」(×)のが何よりダメです。実際、1回目のテストでは、再テストや補習をすることで、最後には全員が合格したのですよ。



今回の百人一首テストを通して、61期生のみんなが大きな学びを得ようとしているようです。それは、「百人一首の知識が増える」、「カルタ大会が楽しくなる」というものではありません。もちろんそれもありますが、それよりももっと大切な、人生において自分を支える“**生き方**”です。《自分で目標を設定し、それに向けて自分なりに努力をして、自分を高める》ということが出来る人は、大人になって、今勉強していることを全部忘れても、豊かな人生を送ることができます。でも、まあ、そんなことは意識せず、ただひたすら“日本の伝統”を楽しみましょう♪

保護者のみなさまへ

たとえば、私(大嶋)が「今読んでいる本」の話をすると、ものすごく食いついてくる生徒たちがいて、何人かの生徒には私物の本を貸したこともあります。私がオススメした本を自ら読んで、感想を伝えにくる生徒もいます。百人一首テストでは、語呂合わせで覚える方法を教えれば、さまざまな語呂合わせをどこからか入手してきます。バタバタと忙しい中学校生活の中で、ともすれば“しんどい”、“めんどくさい”の一言で片づけられそうな局面を、楽しみながら乗り越える感性やたくましさを61期生は持っているようです。これからもその感性を磨きに磨いていきたいと思っています。引き続き、みなさまの変わらぬご協力をよろしくお願いいたします。

